

歴史と「環境」

いささか硬いお話ですが、幼稚園教育要領から話を始めます。幼稚園教育要領は日本中の幼稚園が保育を計画し、実施するにあたって基本とすべきことを定めたものです。

教育要領の第1ページには「幼稚園の教育は環境を通して行うことを基本とする。」と書かれています。ここでいう環境はとても広い意味を持っていて、子どもを取り巻く園生活の状況や条件すべてを総称して、「環境」という言葉が使われています。具体的には時間も、人も、かもしだす雰囲気も、そういうすべてのものが環境です。だから「環境を通して行うことを基本とする。」ということは、「子どもの幼稚園生活全体を通してなされることを基本とする。」と言い換えてもよいものなのです。

さて、園舎が新しくなり、広い園庭ができて2学期が始まりました。子どもたちの園生活の環境としてはとても良くなったのです。保育室は明るく広くなり、トイレも使いやすく清潔になりました。園庭も広くなって、水はけがよくなりました。すべての面で保育環境が大きく改善されたのは間違いありません。また子どもたちにとっては慣れ親しんできた環境もちゃんと保たれています。保育室の柵や机は今まで使いなれたものですし、もちろん先生だって友だちだってみんな同じです。また1日の園生活の時間の使い方もこれまでと少しも変わりありません。でも、ここまで2週間ほど過ごしてみて、正直に言えば筆者は居心地の悪さを感じてきたのです。何か足りないものがあるという気がしてなりませんでした。

この「なにか足りないもの」は一体何だろうと思いつけていました。それを探して室内を歩きまわってみました。けれども見当たりません。園庭の東側に未整備の部分が残っているためかと考えて、ドカタ作業をしてきれいに行ってみました。でもそれでもありませんでした。そして今はこう考えています、「『なにか足りないもの』それは歴史だ」と。古い園舎のテラスに並んでいた丸い柱のペンキの剥げ具合や、子どもたちが掘り返して凸凹になった園庭がなつかしいのです。そこには長い時間のなかで子どもたちと先生たちが織りなしてきた園生活の味やにおいが、結晶しているのです。新しい園舎と園庭にはそれがないと気がつきました。どこも新しくてきれいだけれど、味もおいもしないのです。素っ気ないのです。「なにか足りないもの」と感じさせた原因はこのあたりにあったと思っています。

冒頭の部分で、環境には「かもしだす雰囲気」も含まれる、とご紹介しました。”歴史の味とおい”は「かもしだす雰囲気」を作る大きな要素なのだということを学んだ気がします。積み重ねてきた歴史がかもし出す雰囲気はとても大切な働きをします。そういえばワイン作りでは、地下室のカビが大切な役割をすると聞きました。長年使い込んでカビの生えている部屋がよい酒を造るのです。聖書には「革袋と酒」の話があります。新しい革袋に新しい酒を入れ、時間をかけて熟させると美味しい酒ができます。新しい園舎と園庭は新しい革袋です。ここに子どもと教師が作る充実した園生活という新しい酒が注がれました。まだこの酒はなにか足りなくて素っ気ない味がするのです。この園舎と園庭で繰り広げられる園生活が積み重ねられることによって、やがて美味しい酒になります。10年たったら、その時の子どもたちと先生たちが、革袋から美味しい酒を汲んで飲むことでしょうか。これまで私たちが味わわせてもらってきた味を楽しむのです。